

安全対策10か条

チェックポイント

地震から身を守る最大のポイントは、日頃の備え。ケガや火災などの二次災害を引き起こさないためにも、いざという時の行動を頭に入れておきましょう。

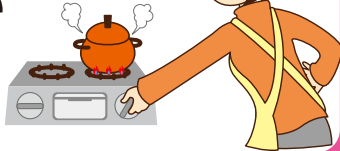
1 まず身の安全を!

ケガをしたら火の始末や避難がおくれてしまいます。家具の転倒や落下物には十分な対策を。



2 すばやく火の始末

揺れを感じたらすばやく行動。火元付近には燃えやすいものを置かない習慣を。



3 戸を開けて出口の確保

震動でドアが開かなくなることも。戸を開けて避難口の確保を。



4 火が出たらすぐ消火

万一出火しても天井に燃え移る前なら大丈夫。あわてず消火を。



5 あわてて飛び出さない

飛び出しはケガのもと。冷静な判断を。



6 狭い路地やブロック塀には近づかない

ブロック塀や自動販売機は倒壊の恐れが。すばやく避難を。



7 協力し合って応急救護

地域ぐるみで協力し合って応急救護の体制を。



8 山崩れ、がけ崩れに注意

居住地の自然環境を把握して二次災害防止の心掛けを。



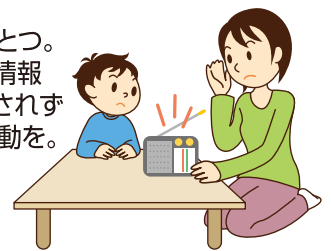
9 避難は徒歩で

マイカーでの避難は危険なうえ緊急出動の障害に。ルールを守る心のゆとりを。



10 正しい情報を聞く

事実はひとつ。間違った情報にまどわされず的確な行動を。



case 1 地震発生と同時にタンスが倒れたが、寝室には大きな家具を置いてなかったので助かることができた。

▶▶▶ **ポイント** 家具の転倒防止と家の中に安全なスペースをつくるのが大切。

case 2 玄関ドアがゆがんで、家の中に閉じ込められた。窓ガラスを割って外へ出ることができた。

▶▶▶ **ポイント** 玄関ドアが鉄製などは注意が必要。玄関以外にも脱出する場所の確保が大切。

case 3 家の倒壊で下敷きになり、動くことができなかったが、近所の人々の協力で助け出された。

▶▶▶ **ポイント** ふだんから地域とふれあい、互いに助け合う地域づくりが大切。

case 4 地震発生後、うわさやデマが流れたが、ラジオからの情報で惑わされなかった。

▶▶▶ **ポイント** ラジオ、テレビ、防災無線などで正確な情報を得て、行動することが大切。